

“MY TOWN” うおっちゃん

歩キ目デス & 足ラデス

Vol.40

鳥の目ウォッチング

タウンツーリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー

岡崎直司

あれはもう、十年ほども前になるだろうか。私はシベリア大地の上を飛んでいた。初めてヨーロッパに行く機会があり、パリに向かっていた時のこと。うとうとして目覚めた時に窓から眺めると、眼下には広大なシベリアの大平原が広がっており、丁度水平線からの朝日を受けて、雲間から現れては様々に変化する地形の妙に長い時間見とれていた。

延々と蛇行を続ける河川や三日月湖などの湖沼群、



シベリア大地、その一。

あるいは幼年期、壮年期、老年期などとして昔学校で習った山岳地形の変化。その中で、明らかに人工による直線と思われる、鉄道か、幹線道路か、あるいは国境なのかどうか、タイガ針葉樹林帯を切り裂く一直線などなど。機内アナウンスでは、確か高度一万メートルだったか、その雄大な光景にしばらく圧倒された。そしてふと、かつて大黒屋光太夫は、エカテリーナ女帝に謁見し帰国嘆願をするため、この無限に続く白い荒野を必死の想いでひた走ったのか、とも。その時の臨場感を忘れることが出来ない。

人は、視点を変えてそのものを見た時、新

鮮な驚きと興味を覚えるものである。その点、飛行機に乗るといふポジションは、非日常のアングルを提供してくれるまたと無い機会。だからと言って、海外にはそうそう行けないので、せめて国内で飛行機に乗る時には、出来るだけ窓側の位置を予約する。勿論、天候に恵まれることは

シベリア大地、その二。



写真②



写真③



写真①



写真④



必須条件だが。

先ごろ、久しぶりに所用で松山空港から大阪経由で新潟に行く機会があり、眼下に広がる風景の変化を満喫した。二重ガラスの窓から撮影するため、映像の鮮明度は申し訳ないが、空からの視点をお裾分け。

写真①は、名古屋市郊外のゴルフ場。最近では昔ほどの乱開発はされなくなったが、それでも上空から大都市近郊の丘陵地を眺めると、つぎはぎだらけの所を多く目にする。羽田へ着陸する際など、神奈川や千葉辺りで目の当たりにする、その度を越した多さには唖然とする。

写真②は、瀬戸市だと思われるが、偶然陶土の採掘現場上空に差し掛かった。“セトモノ”というのが陶器の代名詞となつて久しいが、このスケール感で上空から見下ろすと、そうした歴史的な物量の凄さを実感する。

写真③は、気になるダムがあったのでバチリ。後で調べると木曽の御嶽山の麓にある牧尾ダム。何故撮影したかという点、ダムの堤体がスロープ状になっていて、おっロックフィルダムだ！、と思つたから。通常の重力式コンクリートダムと違って、現場の採石を積むことで施工する珍しいタイプ。検索によると、愛知用水の水源として昭和36年に完成している。愛媛県では砥部町の銚子ダムが同タイプ。砥部焼きに使われるものと同系統な石で積まれている。それにしても

霊山御嶽山と言えども中腹にはまたしてもゴルフ場。

写真④は、新潟近郊の日本海沿い。出雲崎近辺と思われるが、丘陵地帯の水系に沿つて、田畑の土地利用が進んでいるのが分かる。北陸自動車道と、右下にはここにもゴルフ場。

写真⑤は、新潟空港近くの砂丘。もどかしいのは、もうちょっとこつちを飛んでくれと願つても、パイロットと私には何の因果関係もない。従つて中途半端な写真になつてしまった。写真以外を紹介すると、信濃川と阿賀野川の大河川が注ぐ港町新潟は、広大な砂丘上の立地であることが、今回の空からの眺めでよく分かつた。

写真⑥は、帰路、奈良盆地上空で古墳を発見。かなり低空を飛んでくれたので、前方後円墳の形がハッキリと分かつたが、どこの古墳だろう。続いて⑦も、こちらは整備された美しい前方後円墳。生駒山地を越えて、大阪府側で見つけた。

写真⑧は淀川の橋梁群。いい眺めだった。その後間もなく、目が釘付けになったのが、写真⑨。ムムッ、日本列島の上空に差し掛かつた。アツという間だったので、やつと一枚撮つて精一杯。後で分かつたが、伊丹市の昆陽池公園。野鳥や昆虫観察で有名ならしい。やはり空からの眺めは面白い。生まれ変わったら鳥になろう。

写真⑧



写真⑥



写真⑨



写真⑦



写真⑤

